



家庭学習 について考える《その1》

1年生から、なぜ家庭学習が必要なのか



家庭学習は非常に大切なことです。これは単に学習をするということのみならず、家庭内におけるしつけにも関連してきます。その大切さは極めて大であると感じます。

中学生、高校生の中には、ゲームやスマホ、その他の遊び、部活等に熱中してしまって、家庭学習ゼロというのでも少なくありません。このようなことではいけないと分かってはいても、中高生にもなれば、素直に親の言うことなど聞きませんよね。だからといって、中学生になってから急にしつけを始めてもうまくいかないのは当然のことです。そうならないようにするためにも、小学1年の時から家庭学習をする習慣を身に付けさせることがとても大切です。

親の生活に「筋が通っている」かどうかは、子どもに案外伝わるもの

何事も習慣として身に付けると、それをしないと気持ち悪いくらいになります。生活に節目やリズムをつけることは、人生全般に見ても非常に重要なことです。

子どもにこのような習慣を付けさせる根本は、親の生きている姿勢です。親が節目も何もない生活をしていて、子どもにしつけをしようとしても難しいでしょう。夫婦が共に働いていて疲れて帰ってくるので、家の中でそんなにしっかりした生活はできない、という人があるかもしれません。これに関しては大丈夫です。子どもというのは「本質」を直感的に掴む力があるので、家庭では少しぐらいのんびりとしていても、親の生活に「筋が通っている」かどうかは子どもに案外伝わるものです。

親は親なりに筋を通して生きています。「子どもの筋を通した生き方には家庭学習が不可欠である」というような、しっかりとした姿勢が私たち大人になくしてはなりません。

歩み続ける・・・



春から夏にかけて、私の自宅前のアスファルトから雑草がどんどん生えてきます。アスファルトを突破して生えてきたのです。微力でも、じっくり時間をかけるからこそ、雑草はアスファルトを突き破ることができます。因みに「雑草恐るべし」と思いながら、引っこ抜かせていただきました(笑)。

暗唱成功を目指して、練習に取り組む子どもたちの姿もこれに似ています。校長室を訪れて、1回で成功する子もいれば、途中で続きが言えなくなり、翌日も、その翌日もチャレンジする子もいます。その姿を見た時、「いい姿だな」と思いました。粘り強く続けていくことでやがて大きな力となり、成功に辿り着きます。

10Kmずつ進む人は挫折するかもしれません。

1cmずつ進む人はいつか成し遂げます。

人生においては、どこまで進むかは問題ではありません。

大切なのは、スピードではありません。

ゆっくり、ゆっくり歩み続けることです。



【校長室で暗唱に挑戦する子どもたち】

「止」まるが「少」ないと書いて「歩」むです。

雨だれが石を穿つのは、激しく落ちるからではなく、何度も落ちるからだ。

———— by ルクレティウス